

指定管理者評価シート

事業名	こども劇場管理運営	所管課(電話番号)	子ども未来局子ども育成部 子どもの権利推進課(211-2942)
-----	-----------	-----------	-------------------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市こどもの劇場 やまびこ座	所在地	東区北27条東15丁目1-1
開設時期	昭和63年(1988年)6月	延床面積	1495.37㎡
目的	人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他活動に資する。		
事業概要	人形劇等の制作・発表の場の提供、人形劇等の制作に関する指導ならびに資料収集・提供情報、講習会・展示会・講座		
主要施設	ホール、会議室(1室)、研修室(1室)、美術工作室(1室)、ロビー・展示室		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	平成30年(2018年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:札幌市こどもの劇場「やまびこ座」は、全国でも数少ない子ども専用劇場として、子どもを対象とした人形劇、児童劇等を専門に取り扱う施設であるという特殊性から、指定管理者には貸館業務にとどまらず、専門的知識や豊富な経験を有する適正な人材を確保し、指定管理者自らが人形劇、児童劇等の制作及び発表を行うこと、並びに担い手である制作団体を育成することが求められ、特に担い手の育成については専門性と継続した取組が不可欠であるため。		
指定単位	施設数:1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、事業の計画・実施業務、施設の使用承認業務等		
3 評価単位	施設数:1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価				
1 業務の要求水準達成度							
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>「未来ある子どもたちの夢をはぐむ劇場づくり」札幌市こどもの劇場やまびこ座は、『人形劇、児童劇などの制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること』を目的に設置された施設である。</p> <p>全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇などに親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>人形劇や演劇などの子どものための舞台表現活動を行う団体に対して広く開いている。優れた作品を安価で上演できる劇場運営を基本方針とし、劇場の職員として、子どもとその家族が中心の観客を温かく迎え入れる役割を持つと同時に、そこで上演する団体の支援者となることに努めた。</p>	<p>・施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。</p> <p>・市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践した。また、当方針を達成するために劇場の職員の意識を1つにし、親しみやすい温かな雰囲気作りに努めた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。</p> <p>また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を伴いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。</p> <p>今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

<p>▽ 地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進</p> <p>環境行動マニュアルに基づき、環境保全を意識しながら業務を推進した。 環境保全に配慮した行動を職員や利用者に周知し、エネルギー使用量削減の啓発に努めた。</p> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 統括責任者を1名配置した。 ▼ 事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。 ▼ 人材育成 <p>(1)派遣研修(劇場運営関係)</p> <p>国内外の人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門性向上に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」 <ul style="list-style-type: none"> ①12月3日(金)～9日(木) 職員4名 ②3月8日(火)～14日(月) 職員3名 ・砂川人形劇創作体験プログラム 7月13日(火)～3月21日(月) 職員3名 ・「こどものまなび塾」参加 10月14日(木)～15日(金)、10月19日(火)～20日(水) 職員1名 ・全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会(オンライン) 1月12日(水)・14日(金) 職員4名 <p>(2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 (劇場の理解など) 4月22日(木) 職員10名 (障がい児への理解と支援・オンライン) 1月27日(木) 職員3名 ・人形劇ゼミナール(人形劇指導研修) 4月15日(木)～8月9日(月) 職員6名 ・将来構想/広報戦略プロジェクト 通年 職員6名 ・刈払機取扱作業安全衛生教育 5月25日(火)、6月11日(金) 職員4名 <p>(3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職位階層別研修 ・目標管理面談 ・評価者研修 ・個人情報保護研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道、ガス等)の節約に努め、施設運営を行った。 ・管理業務を適切に行うため、人形劇や児童劇、舞台、照明、音響に係る専門職員をはじめ、管理に係る職員を適正に配置し、組織を確立した運営を行った。 ・劇場職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者に関わるべく多様な場で研鑽に努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休館中に職員研修(人形劇ゼミナール)を行ったことで、スタッフ一人ひとりの業務への理解が深まり、利用者側の立場、ニーズをイメージしやすくなった。この理解を生かし、利用者のニーズに応じていくことが期待できる。 ・「将来構想」、「広報戦略」という2つのテーマにおける課題の洗い出しと業務改善により、劇場職員としての意識向上と、人材育成の両面から成果に結びつけることができた。 ・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき研修を実施したことで、各職員の資質向上を図ることができた。 	<p>管理運営組織は適性に確立されており、緊急時の体制も整っている。</p> <p>派遣研修に関しては、子どものための専用劇場という特異な施設であることを念頭において十分な事業が実施されている。</p> <p>加えて、指定管理者としてふさわしい資質を備えた職員を育成するための研修についても実施されている。</p> <p>今後も継続して、職員の資質を向上させ、利用者満足等に反映されるように努めること。</p>
--	--	---

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼財団内のネットワークシステムを活用した情報共有、担当者間や所属職員間で定例の職員会議を実施し、管理水準の向上に努めた。

▼日常業務のブラッシュアップを行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を随時行った。

▼職員によるプロジェクトを組織し、率先して業務の質を向上させ、先見的な方向性を打ち出すことを目指した。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 下記の業務について再委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。

	業務名	契約業者名	実施月	契約方法
1	清掃	東亜産業(株)	通年	指名競争入札:複数年
2	機械警備	帝国セキュリティ(株)	通年	指名競争入札:複数年
3	自動扉保守点検	三和シャッター工業(株)	8・11・3月	随意契約(特命):複数年
4	空調衛生設備保守点検	パナソニック産機システムズ(株)	通年	随意契約(特命)
		(有)ケンブラック	5・7・8・9・11月	随意契約(特命)
		北菱産業埠頭(株)	8・2月	随意契約(少額)
5	オーバースライダードア保守点検	三和シャッター工業(株)	8・11・3月	随意契約(特命):複数年
6	消防用設備等保守点検	(消防用設備) (株)ヤシマ保全	4・10月	随意契約(少額)
		(防火対象物) (株)ヤシマ保全	9月	随意契約(少額)
		(自家発電設備) (株)ヤシマ保全	11月	随意契約(特命)
7	舞台吊物及び照明設備保守点検	(株)池下電設	7・1月	随意契約(特命)
8	舞台音響設備点検業務	(株)池下電設	7・1月	随意契約(特命)
9	除排雪	(有)阿部組	12~3月	指名見積合せ
10	自家用電気工作物保安管理	大崎電気管理事務所	通年	指名見積合せ:複数年
11	塵芥収集	(一財)札幌市環境事業公社	通年	随意契約(特定)
12	建築基準法12条に基づく点検	(建物) (株)ヤシマ保全	2月	随意契約(少額)
		(機械換気) 道民防災コンサルタント(株)	11月	随意契約(少額)

・財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。

・施設の良い維持管理のため、事前に承認を得た業務について専門業者への再委託を行った。

定期的な会議を実施するなど、業務改善に向けた取り組みを実施したことは評価できる。引き続き、情報共有や日常業務の見直し改善を継続するとともに、管理水準の維持向上に努めていくこと。

第三者に対する委託業務等の管理については適切に行われていることから、今後も継続して、施設の良い維持管理に努めること。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
運営協議会 (第1回) 11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・事業や運営についての意見交換
運営協議会 (第2回)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告(下半期) ・アンケート結果及びセルフモニタリング報告(下半期) ・事業や運営についての意見交換 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面による報告と意見集約とした。(当初実施予定3月4日)

<協議会委員>

札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会会員、小樽商科大学特任名誉教授、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市こども人形劇場館長

利用者説明会 12月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用、劇団育成支援事業について ・新型コロナウイルス感染症対策について ・公演スケジュール調整 ・各劇団の近況報告
-----------------	---

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施している。
- ▼ 金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規定及び財務規程、金券等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。
- ▼ 当財団における内部監査の実施や、公認会計士による外部監査を導入している。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心掛けた。
- ▼ 意見箱を設置し、日常的に市民の声を聞くことができる環境を整えた。(令和3年度については、意見箱への要望・苦情は無し。)
- ▼ ご意見・苦情1件
「空調室外機からの異音」に関する苦情(※令和2年度から継続対応)
札幌市に報告の上、設備保守業者と改善策の検討を行い、随時対応を行った。(9月以降は苦情連絡は無し)

・運営協議会を設置し、委員の方へ事業実施状況などの報告を行った。施設運営についての有意義な意見交換を行うことができた。

・利用者説明会は、施設からの連絡事項や新型コロナウイルス感染症対策について、各劇団からの近況報告を行った。利用者との相互理解の場とすることができた。

・現金の取扱いについては、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めた。

・直接いただいたご意見については職員間でその内容を共有し、原因分析を即座に行い苦情の低減に努めた。
・苦情の対応については、札幌市に即時報告を行い協議した。
・市民に対しては丁寧な説明をすることに努めた。

運営協議会や利用者説明会を実施し、利用者のニーズ把握に努めており、評価できる。引き続き、関係機関との連携を図り、より良い施設運営につなげていくよう努めること。
また、新型コロナウイルス感染症に係る対応について、関係団体と相互理解を深めることができている。今後も、連絡調整を継続し、安心安全な劇場運営に努めること。

業務・財務検査の結果、記録・帳簿等の整備、保管、事業等の報告について、適正な事務処理がなされていることが確認された。

	<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 業務実施に関する記録、帳簿等の整備、記録保管に努めている。(業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿等) ▼ 劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。 <table border="1" data-bbox="384 439 979 510"> <tr> <td>業務財務検査 3月11日</td> <td>・業務検査 ・財務検査</td> </tr> </table>	業務財務検査 3月11日	・業務検査 ・財務検査	<p>セルフモニタリングにより自己評価を行い、今後の事業運営に繋げた。</p> <p>札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。</p>			
業務財務検査 3月11日	・業務検査 ・財務検査						
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。 ▼ 職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。 ▼ 法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。 ▼ 職員の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、医療保険に加入。また、必要に応じて適正に届出等を実施した。 ▼ 常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。 ▼ 全ての労働者を労災保険に、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。 ▼ 法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。 ▼ 業務内容に応じたシフト制勤務と、職員間連携を徹底することで時間外労働時間軽減に努めた。 	<p>・労働関係法令に関する理解を深めるとともに、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止対応として職場環境の整備と可能な限り出勤者を減らしたことにより、感染リスクを低減させるよう努めた。</p>	<table border="1" data-bbox="1246 546 1449 577"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				
(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 日常的に点検を行い、常に最良の状態を保つよう管理した。また、職員間の情報共有により、危険個所の早期発見、事故の未然防止に努め、利用者の安全確保につなげた。 ▼ 拾得物の取扱いについては、対応フローを作成し適正な取扱いを行った。 ▼ 保険は管理業務仕様書にある内容を補償するものに加入し不測の事態に備えた。 	<p>・日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行った。</p>	<table border="1" data-bbox="1246 1252 1449 1283"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

- ▼ 再委託により実施する業務については、専門業者に依頼し、適切な監督と履行検査を行った。
- ▼ 備品管理については、日常的に点検、清掃等を行い、故障が著しい備品については随時更新するなどし、維持管理に努めた。
- ▼ 敷地内の植木植栽物については、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。
- ▼ 駐車場内での事故等に十分注意し、利用者以外の進入がないよう、車両の監視、誘導等に努めた。
- ▼ 施設・設備等の不備や故障については、速やかに修繕を行った。

<修繕の実施>

	修繕内容	修繕完了日
1	利用者用印刷機修理	8/17
2	受付カウンターガラス修理	11/24
3	ホワイトボード版面修繕	11/25
4	貸室内カーテンレール修繕	2/24
5	照明操作卓修理	3/4
6	流し台修繕	3/27
7	ショックマウント修理	3/25
8	荷解室棚修繕	3/27

▽ 防災

- ▼ 防災計画を策定するとともに、利用者及び職員の参加による防災研修及び訓練を実施した。
 - 第1回 10/12(参加7名)
 - ・消防設備の使用方法の確認
 - ・通報・消火・避難誘導の自主訓練
 - 第2回 3/23(参加7名)
 - ・通報・避難誘導の自主訓練

・法令に基づき、点検・検査を実施し、施設機能の良好な維持管理を行った。

・日常的に、施設利用者に対しても利用上の注意や安全確認について留意するよう促した。

・軽微な修繕については、札幌市の承認を得て実施した。

・災害や利用者の傷病に対する対応について、常日頃より気を配り、突発的な事態に対応できるように事前の準備を心がけた。

多くの子どもたちが利用する施設であるという施設の特徴を踏まえ、防災研修・訓練等について、引き続き、日頃の備えを行うこと。

(4)事業の計画・実施業務

▽ 児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務

【公演事業】

▼ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により、上半期の公演事業は大部分が中止することとなった。国や業界団体の指針を基に札幌市と協議のうえガイドラインを策定し、感染症対策を講じて公演再開を目指した。施設開館後の7月～8月の公演は、感染症対策のノウハウの蓄積と劇団の負担を考慮して実施することができた。また、感染リスクを軽減する取組みとして、令和2年度から始めた屋外公演「あおぞらキッズシアター」と夜間屋外公演「ほしぞらキッズシアター」を引き続き実施し、新しい観劇スタイルとして参加者から好評を得ることができた。

▼ こぐま座と中島公園で共催実施を予定していた「こぐま座45周年記念『サイトスペシフィック・パフォーマンズ』」「札幌国際人形劇フェスティバル(海外から人形劇団を招聘する特別公演)」「冬の野外巨大人形劇『マルシユカと12の月』」は、実施予定時期に新型コロナウイルス感染症の拡大傾向が高まったため中止した。

・令和3年度もコロナ禍ではあったが、文化芸術が人に与える影響の大きさや重要性、子ども文化施設としての役割を改めて認識することができた。各劇団と協働で前向きに取り組む姿勢を打ち出すことができた。

・コロナ禍でも安全に安心して観劇できる事業を実施できたこと、その事業の参加者から好評を得られたことは評価できると考える。

A	B	C	D
新型コロナウイルス感染症の影響により、公演回数等、指定管理者が自ら設定した目標数値の達成はできなかった。しかしながら、屋外公演など新しい観劇のスタイルを構築し、参加者からも支持を得たことは非常に評価できる。			
今後も関係劇団等との連携を図りながら、コロナ禍における文化芸術の発信方法を引き続き検討し、事業展開すること。			

主な公演事業	ステージ数(回)	観客数(人)
ほしぞらキッズシアター/あおぞらキッズシアター	3	141
夏の特別公演	5	263
いぶし銀たちの競演(同時開催: 北海道人形劇フェスティバル)	4	338
座・競演～につぼんの伝統芸能 ～	2	194
東区市民劇団育成事業発表公 演	2	134
人形浄瑠璃2021	4	314
札幌人形劇祭※こぐま座と協働	5	484
さっぽろパペットシアタープロジェ クト「北のおぼけ箱」	2	193
人形浄瑠璃講習会/義太夫講習 会合同発表会	1	34
ざ・にんぎょうじょうりゆうスク ラス発表会	1	54
春の特別公演	2	142

※施設休館に伴い中止した主催・共催事業 実施予定
 ゴールデンウィーク特別企画～被災地の 5月
 こどもたちへ笑顔をとどけよう～「バラ☆バ
 ラ☆バラエティーショー」
 経験者のための人形劇クリニック発表公 8月
 演
 こども舞台体験プログラムふれアートミニ 6、9月
 発表会
 あおぞらキッズシアター(2回目) 9月

【講座事業】

人材育成事業は、人形劇、児童劇、人形浄瑠璃を中
 心にこぐま座と連携して実施した。

初心者のための人形劇講座・経験者のための人形
 劇クリニックは、施設休館中はオンラインで対応するな
 ど継続して取り組めるよう工夫した。

東区市民劇団育成事業は、地域に根ざす市民劇団と
 して児童劇の演劇ワークショップとプロデュース公演の
 制作を実施した。

人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会では、「さっぽろ人
 形浄瑠璃芝居あしり座」と協働し、札幌における文化の
 担い手を育成した。

(延べ人数)

主な事業	回数	参加人数
札幌国際大学人形劇ワークショップ	2	89
初心者のための人形劇講座	16	95
経験者のための人形劇講座	21	161
東区市民劇団育成事業	28	211
人形浄瑠璃講習会	15	345
義太夫講習会	18	270
計	100	1,171

・施設の根幹であ
 る、人材育成事業
 に注力した。この、
 人材育成を根幹とし
 た取り組みは全国
 的にも注目されてお
 り、今後も子どもか
 ら大人まで、より多
 くの市民が関わって
 いける受け皿を構
 築することで、札幌
 の文化の将来を担
 う人材育成へとつな
 げていく。

市内の子どもた
 ちに安定的かつ
 魅力的な公演を
 提供し続けるた
 めに、人材育成事
 業は重要な事業
 のひとつであり、
 これまでも多くの
 市民劇団を育成し
 続けているのは
 高く評価できる。
 引き続き、地域
 に根ざした新規
 劇団の育成を
 継続すること。

【子どもの舞台表現活動の推進】

子ども対象事業は、通年事業として伝統文化関連事業(ざ・にんぎょうじょうりユースクラス)、演劇関連事業(やまびこ座遊劇舎、劇☆やまびこ座YOUTH)を実施した。単発の体験事業としてはこども舞台体験プログラム「ふれアート」を実施し、専門の講師による舞台体験機会を実施した。

札幌市内の児童会館(9館)と連携し、人形劇クラブの指導及び育成を行った。各児童会館の子どもたちだけでなく、指導者として携わる児童会館指導員の専門性を高める事業となった。

新たに障がい児との舞台美術制作に取り組んだ。小学生から大学生までが参加し、障害の有無にかかわらず、人形劇の創作活動をとおして共に手を携えて取り組んだ。

(延べ人数)

	講座名	回数	参加人数
1	やまびこ座遊劇舎	20	246
2	劇☆やまびこ座YOUTH	11	123
3	ざ・にんぎょうじょうりユースクラス	16	144
4	こども舞台体験プログラム「ふれアート」	4	86
6	人形劇クラブの指導・育成	66	1,107
	計	117	1,706

地域連携アウトリーチ事業では、元町北小学校と札幌国際大学から依頼を受け、指導者を派遣した。また、「砂川人形劇指導」では道内他施設での人形劇指導を実施した。

地域の町内会や企業、団体と連携し例年実施していた夏まつりは、町内会と協議の上、令和3年度も中止することとした。地域に愛され地域に根付いた施設として、今後も地域組織と協働した事業は実施を検討していく。

▼ 劇場の公演活動の充実や劇団支援、地域連携の活性化を目的として協賛金を募る「事業サポーター制度」を実施し、11件の個人協賛と、2件の企業協賛を得ることができた。

▽ 子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務

▼ 9～10月に、こどもの劇場・こども人形劇場職員による将来構想プロジェクトチームが「芸術鑑賞に関するアンケート調査」、「こどものための文化芸術団体へのアンケート調査」を実施した。利用者がどのようなサポートが必要としているかなど、劇団の活動を活性化させるためのアプローチを検証した。また、学校教育施設への出前公演、劇場での団体観劇、鑑賞教室の誘致、文化体験教室等の実施の可能性を探るための情報収集を行った。

「芸術鑑賞に関するアンケート調査」

調査対象：札幌市内及び近郊の人形劇、読み聞かせ等を行う文化団体

「こどものための文化芸術団体へのアンケート調査」

調査対象：札幌市及び石狩管内の小中学校 特別支

・各事業に参加した子どもたちが、生き生きと舞台表現活動に取り組み、成果をあげることができた。

・児童会館の拠点が前年度より増えたことから、人形劇の裾野を草の根的に広げることができたと考える。全市的に広げられるよう、来年度以降も継続して取り組んでいく。

・障害などの有無にかかわらず、互いに認め、支え合うことのできる関係を理想とし、文化芸術による共生社会の推進を目指して取り組むことができた。令和4年度以降も継続することで、そのためのノウハウの蓄積を行っていく。

・これまでの実績の積み重ねにより、地域連携事業や関係団体・機関との協働につなげることができた。

・市民と共につくる劇場、地域に根差した劇場運営の観点から、一定の成果が表れていると捉え、今後もこの取り組みを継続、強化していく。

・劇団や文化芸術活動に携わる方や教育施設等のニーズを知ることで、今後の劇場運営、事業実施の方向性を考え、未来ビジョンを描いていく。

子どもが人形劇等の舞台芸術等に触れるきっかけとなる体験プログラム事業及び児童会館での人形劇指導は、人形劇の裾野の拡大において有意義である。加えて、より本格的に人形劇等の制作等を学ぶことができる通年事業は、青少年の健全育成として相応しい。

また、今年度から新たに障がい児との舞台芸術制作に取り組み、より多くの子どもが文化体験の機会を享受できるようにしたことは評価できる。

引き続き、障がいの有無に関わらず、より多くの市民が文化芸術に触れられるよう努めること。

引き続き、地域と連携した多くの行事を通じて、子どもから大人までの多くの市民が劇場に集い、地域に開かれた親しみある劇場でありつづけること。

関係団体等の調査や情報収集、資料の公開等、舞台活動の拡充に取り組みされており、評価できる。

引き続きプロデュース人形劇をはじめ、市民ニーズを捉え、人形劇文化の発信に努めること。

	<p>児童館・児童センター・児童発達支援センター・児童発達支援学校</p> <p>▽ 劇団育成支援に関する業務</p> <p>▼ 劇団支援策として「札幌市こどもの劇場やまびこ座支援事業」を実施した。各劇団のホール・研修室・美術工作室・会議室利用について、使用料の一部を負担した。 ※申請件数133件、利用区分件数489件</p> <p>▼ 12月に利用者説明会を開催した。施設側から新型コロナウイルス感染症対策について説明し、劇団側と情報交換や要望を確認した。</p> <p>▼ 読み語りの会登録者9名により、週1回施設内で読み聞かせを行った。しかし、公演時の市民ボランティアについては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため令和3年度も受付を中止した。</p> <p>▽ 人形劇等に関する指導、相談業務</p> <p>▼ 人形劇、演劇等の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日常的に人形劇や児童劇等について、指導、助言ができる体制づくりに努めた。 公演時や稽古時等において適宜アドバイスをを行い、劇団と協働してより良い作品づくりを目指した。コロナ禍で上半期に実施できた講座事業は少なかったが、下半期に人材育成事業を行ったことで子どもたちの創造活動を継続することができた。</p>	<p>・劇団の育成のため、今後も継続して支援活動に取り組んでいく。</p> <p>・利用者説明会を実施し、劇場と劇団で思いを共有することができた。</p> <p>・一部中止とした事業もあったが、市民ボランティアと協働で事業を実施し、市民の交流と自己実現の場とすることができた。</p> <p>・日常的に市民対応を行うことができる体制の強化、オンライン講座や動画配信など新たな指導方法を引き続き検討し実施する。</p>	<p>子どもたちに魅力的な舞台芸術の鑑賞機会を提供するためにも、劇団育成は極めて重要であることから、劇団と連携しながら、育成支援を継続すること。</p> <p>市民ボランティアとの協力関係が構築されており、共にサービスの向上に努めていることは評価できる。</p> <p>引き続き、やまびこ座にしかできない継続性のある専門的な指導に取り組むこと。</p>																																																																																																								
(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 利用件数等</p> <p>▼ 公演回数・観客数 (回・人)</p> <table border="1" data-bbox="383 1052 981 1272"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度実績</th> <th>R3年度計画</th> <th>R3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上演回数</td> <td>150</td> <td>200</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>出演者数</td> <td>4,914</td> <td></td> <td>5,827</td> </tr> <tr> <td>観客数</td> <td>5,849</td> <td></td> <td>7,892</td> </tr> <tr> <td>上演1回当たりの観客数</td> <td>42</td> <td></td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> <p>▼ 室別利用状況 (件)</p> <table border="1" data-bbox="383 1355 981 2092"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R2年度実績</th> <th>R3年度計画</th> <th>R3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ホール</td> <td>件数(件)</td> <td>439</td> <td>700</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>10,763</td> <td>28,000</td> <td>13,570</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>64.3</td> <td></td> <td>72.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">会議室</td> <td>件数(件)</td> <td>249</td> <td>400</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>1,208</td> <td>2,000</td> <td>1,208</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>35.7</td> <td></td> <td>36.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">研修室</td> <td>件数(件)</td> <td>326</td> <td>550</td> <td>275</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>3,822</td> <td>7,600</td> <td>3,075</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>46.2</td> <td></td> <td>45.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">美術工作室</td> <td>件数(件)</td> <td>374</td> <td>550</td> <td>384</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>3,778</td> <td>7,000</td> <td>3,683</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>53.0</td> <td></td> <td>63.5</td> </tr> <tr> <td>ロビー等</td> <td>人数(人)</td> <td>5,056</td> <td>10,000</td> <td>4,584</td> </tr> <tr> <td>研修見学</td> <td>人数(人)</td> <td>378</td> <td>400</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>件数(件)</td> <td>1,388</td> <td>2,200</td> <td>1,317</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>25,005</td> <td>55,000</td> <td>26,174</td> </tr> </tbody> </table>		R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績	上演回数	150	200	147	出演者数	4,914		5,827	観客数	5,849		7,892	上演1回当たりの観客数	42		54			R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績	ホール	件数(件)	439	700	438	人数(人)	10,763	28,000	13,570	稼働率(%)	64.3		72.4	会議室	件数(件)	249	400	220	人数(人)	1,208	2,000	1,208	稼働率(%)	35.7		36.4	研修室	件数(件)	326	550	275	人数(人)	3,822	7,600	3,075	稼働率(%)	46.2		45.5	美術工作室	件数(件)	374	550	384	人数(人)	3,778	7,000	3,683	稼働率(%)	53.0		63.5	ロビー等	人数(人)	5,056	10,000	4,584	研修見学	人数(人)	378	400	54	合計	件数(件)	1,388	2,200	1,317	人数(人)	25,005	55,000	26,174	<p>・利用者数及びホールの稼働率について、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした臨時休館及び利用制限により、目標の人数・上演日数・上演回数・ホール稼働率が未達成となった。</p> <p>・施設の再開後は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で安全に安心して利用いただけるよう、劇場通信の発行・各種ウェブ媒体・広報媒体による情報発信を行ったことで、前年度実績を上回ることができた。コロナ禍での劇場利用については、劇場として講じている感染症対策をアピールすることで、多くの市民に安心して来館いただけるよう引き続き工夫していく。</p>	<table border="1" data-bbox="1244 974 1436 1019"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館せざるを得ない状況となり、利用者総数や公演回数、貸室利用状況等は、計画を下回る結果となった。今後とも、感染症対策を講じながら、安心安全な公演を実施し、市民にとっての魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。</p>	A	B	C	D				
	R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績																																																																																																								
上演回数	150	200	147																																																																																																								
出演者数	4,914		5,827																																																																																																								
観客数	5,849		7,892																																																																																																								
上演1回当たりの観客数	42		54																																																																																																								
		R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績																																																																																																							
ホール	件数(件)	439	700	438																																																																																																							
	人数(人)	10,763	28,000	13,570																																																																																																							
	稼働率(%)	64.3		72.4																																																																																																							
会議室	件数(件)	249	400	220																																																																																																							
	人数(人)	1,208	2,000	1,208																																																																																																							
	稼働率(%)	35.7		36.4																																																																																																							
研修室	件数(件)	326	550	275																																																																																																							
	人数(人)	3,822	7,600	3,075																																																																																																							
	稼働率(%)	46.2		45.5																																																																																																							
美術工作室	件数(件)	374	550	384																																																																																																							
	人数(人)	3,778	7,000	3,683																																																																																																							
	稼働率(%)	53.0		63.5																																																																																																							
ロビー等	人数(人)	5,056	10,000	4,584																																																																																																							
研修見学	人数(人)	378	400	54																																																																																																							
合計	件数(件)	1,388	2,200	1,317																																																																																																							
	人数(人)	25,005	55,000	26,174																																																																																																							
A	B	C	D																																																																																																								

	<p>▽ 不承認0件、 取消し0件、 減免0件、 還付0件</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 主催事業、主催公演の際、他の公演、事業への呼びかけを行い、宣伝等に努めた。</p>	<p>・使用承認については、条例に基づき適正に処理を行なった。</p>									
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ホームページのアクセス数は54,178件で、前年度比(38,913件)139%という結果になった。また、新規アクセスは61%、再アクセスは39%であった。</p> <p>▼ウェブアクセシビリティを考慮し、年齢や障がいの有無などに関わらず、すべての人が情報に問題なくアクセスできるよう努めた。ウェブアクセシビリティの取組に関する評価表の公開を行った。</p> <p>▼新たな広報戦略として、無料通信アプリLINEを活用し、週ごとに公演情報を登録者に配信することをスタートし、利用者の利便性と集客につなげた。</p> <p>▼公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram)によるリアルタイムでの情報発信を行った。</p> <p>▼定期的に(年6回)こどもの劇場通信(公演情報、事業案内等)をこぐま座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校5校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。</p> <p>▼札幌市イベント情報に毎月公演・事業情報を掲載した。</p> <p>▼公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。また、チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、地下鉄駅や劇場館内への掲示を行い周知を図った。</p> <p>▼(公財)さっぽろ青少年女性活動協会発行のさっぽろ・こども情報誌「あそぼ」に、公演情報を毎号掲載した。(年6回各10万部発行)</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前期からの継続指定のため、引継ぎ業務無し)</p>	<p>・広報業務は、劇場の認知度向上と観客数に直結する重要なものであるとの認識のもと、常に情報発信を行っている。令和3年度も施設の臨時休館があったものの、ホームページのアクセス数は令和元年度の件数(57,787件)に近づけることができた。今後、ホームページのURLをよりわかり易くできるよう、独自ドメインを取得し令和4年度には移行・運用していく。</p> <p>・広報をテーマにしたプロジェクトチームを組織し、より多くの市民に来館いただける方策を検討した。公式LINEの運用を開始し、毎週公演情報の周知に活用することができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

2 自主事業その他

▽ 自主事業		A	B	C	D
<p>▼ 物品販売事業</p> <p>市民サービスの一環として、ハンドパペットやオリジナルグッズなどの販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助やリピーターの確保などにつなげ、公演の活性化を図った。</p> <p>実施期間: 令和3年4月1日～令和4年3月31日</p> <p>販売商品:</p> <p>①ハンドパペット: 金額 150円～700円</p> <p>②オリジナルグッズ: 金額 50円～1,785円</p> <p>【販売実績】</p> <p>①ハンドパペット: 販売個数 0個 0円</p> <p>②オリジナルグッズ: 販売個数 626個 売上額 151,000円</p> <p>合計: 販売個数 626個 売上額 151,000円</p>	<p>・物品販売業務では、前年度の売上額を上回ることができた。引き続き市民の声からニーズを察知し、商品開発を進めていく。</p>	引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。			
<p>▼ 飲料販売事業</p> <p>劇場に公演観劇に来られる来館者や、稽古や舞台仕込みで利用される劇団利用者などに対して飲料の清涼飲料水の販売を行い、市民サービスの向上を図った。</p> <p>実施期間: 令和3年4月1日～令和4年3月31日</p> <p>販売商品: 清涼飲料水 90円～160円</p> <p>【販売実績】</p> <p>販売本数: 清涼飲料水 2,219本</p> <p>収入額: 51,999円(使用料、電気代相当額)</p>	<p>・飲料販売事業の売上本数は、夏期の公演での飲料水需要が高かったこと、再開後新型コロナウイルス感染症の感染状況が収束し、来館者数が回復するのに比例して売上本数が上がったことから、前年度を上回ることができた。</p>	引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。			
<p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>第三者に対する業務委託、物品の調達などを行うにあたり、札幌市内の企業などを積極的に活用した。</p>	<p>・引き続き、札幌市内の企業及び福祉施設への配慮を行う。</p>	引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。			

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果		A	B	C	D
<p>実施方法</p> <p>観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、令和3年4月～令和4年3月の期間で実施した。(※アンケート方法については、来館者へアンケート用紙を配付し回収。任意記名方式。)</p>	<p>・全体的に総合満足度や職員の接遇に関して、高い評価をいただき目標を達成した。</p> <p>・劇場における新型コロナウイルスの感染症対策により、安心して利用できたという声を多くいただくことができた。引き続き劇団と共に対策を講じていきたい。今後も市民のニーズを把握し、観劇する環境をソフト・ハード両面で改善を図っていく。</p>	観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。			
<p>結果概要</p> <p>アンケート結果を集約し、利用者の意見、要望、苦情、ニーズ等を把握し、施設設備、業務等の改善に反映させるよう努める。なお、回収したアンケートについては、札幌市個人情報保護条例に基づき、取り扱いに十分留意し、保管整理している。</p>					

<p>利用者からの意見・要望とその対応</p>	<p>【観客用アンケート】 ・回収1,794枚 ・回答者の年代は、子育て世代の20～40代の回答が令和2年度より下がり12%となったが、小学生21%、13～19歳の若年層が20%となった。 ・公演情報の取得方法では、「広報さっぽろ」が最も多く(44%)、次いで「劇場ホームページ」と「劇場通信」が(12%)となった。施設の開館状況などを確認するために改めて広報さっぽろや施設HPの利用が伸びたものと考えられる。また、ウェブ予約をするためにホームページを経由して次の公演を確認するといった機会が増えたということも考えられる。 ・観劇環境については、どの項目も4.5以上という高い評価を得ることができた。</p> <p>【利用者(劇団)アンケート】 ・回収9枚(目標20枚)で令和2年度の回収数(17枚)及び達成率を下回った。上半期の施設休館に伴い劇団の公演数が減ったことも一因ではあると考えられるが、次年度は劇団の公演時にアンケートへの協力をさらに呼びかけていく。 ・支援体制(施設的环境、サポート体制)及び、施設サービス(利用のしやすさ、職員の対応)の項目については高い評価を得ることができた。一方で、施設の利用申込方法や手続きの仕方については、若年層が多い劇団からウェブ上での空室確認などを望む意見が1件あった。</p> <p>【事業別参加者アンケート】 ・主催事業より9事業(経験者人形劇クリニック、東区市民劇団育成事業、人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会、遊劇舎、劇☆やまびこ座YOUTH、ざ・にんぎょうじょうりゆうス、こども舞台体験プログラム「ふれアート」2事業)についてアンケートを実施した。 ・事業内容及び職員の対応や講師について、全ての参加者から高評価をいただき、満足度も高かった。</p>	<p>・情報を得る手段としてウェブ媒体の割合を高め、メインターゲットである子育て世代の方に情報が届くよう引き続き様々な方法を検証していく。 ・従来の紙媒体も市民にとって情報取得に有効な手段であることから、ウェブ媒体の割合を紙媒体の割合にまで近づけ、観劇や利用を検討している市民を増やしていきたい。</p> <p>・劇団アンケートの結果から、職員の対応や支援体制について高い評価をいただいた。今後も利用者と良好な関係を築く中で新たなニーズを引き出し、施設運営に生かしていく。ウェブ上での空室確認を求める声に対しては、要望の高まりを今後も注視していきたい。</p> <p>・一様に満足度は高く、ニーズに合致した事業展開と読み取れる。今後も職員・講師間での情報共有、検討を行い、より良い事業実施につなげていきたい。</p>	<p>アンケートの結果は要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。 これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するよう努めるとともに、施設利用者の意見を把握し、管理運営に活かすこと。</p>
-------------------------	---	---	--

4 収支状況

▽ 収支 (千円)				A	B	C	D
項目	R3計画	R3決算	差(決算-計画)				
収入	69,318	74,209	4,891	・令和4年度以降も指定管理業務に係る収支のバランスを考慮し、安定的な運営をしていきたい。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休館の影響で、利用料金は減ってしまったが、次年度以降、安定的な運営に向け、改善を続けること。			
指定管理業務収入	69,133	74,006	4,873				
指定管理費	46,053	46,053	0				
利用料金	4,500	4,238	▲ 262				
その他	18,580	20,846	2,266				
休館補填	0	2,869	2,869				
自主事業収入	185	203	18				
支出	69,120	76,631	7,511				
指定管理業務支出	68,938	76,538	7,600				
自主事業支出	182	93	▲ 89				
収入-支出	198	▲ 2,422	▲ 2,620				
利益還元	0	0	0				
法人税等	0	0	0				
純利益	198	▲ 2,422	▲ 2,620				
▽ 説明							
▼ 利用料金収入は、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした施設休館や利用制限に伴い、有料貸室利用が減少したことから計画時の収入には届かなかったが、下半期は休館明けの利用が増えたことで一定の収益確保ができた。							
▼ その他収入のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした施設休館や利用制限に伴い入場料収益は計画時の予定額よりも減収となったが、人形劇制作業務や人形劇指導などの企画事業収益が増収となったことから計画時の予定額を上回った。							
▼ 指定管理業務支出は、事業に係る衛生消耗品に加え、経年劣化に伴う備品・設備の更新や改修が必要となったことから、計画時の予定額を上回った。							

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▼ 安定経営能力の維持 ▼ 当団体の財務状況等は、各事業実施時において収支バランス等を常に把握することで、将来へ向けた安定経営能力は選定時より向上している。		適	不適
▼ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。 ▼ 情報公開請求はありません。 ▼ 札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行っております。 ▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。		適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>未だ終息が見えない新型コロナウイルスの影響により、今年度も施設の休館や時短開館など様々な制約の中での施設運営となった。</p> <p>こぐま座の開館45周年記念事業を協働で実施する計画であったが、内容変更と規模縮小を余儀なくされた。そのうち、やまびこ座で実施を計画していた「国際人形劇フェスティバル」は、海外劇団の招へい公演が渡航制限により中止となったことは残念であった。</p> <p>休館からの施設再開となった10月以降の特徴的な事業として、「座・競演」を実施した。やまびこ座の人形浄瑠璃事業を経て、現在は大阪の文楽でプロとして活躍をする竹本碩太夫の凱旋公演ということで企画を行った。公演とワークショップを実施し、人形浄瑠璃のほか、能楽、落語、茶道と多分野の伝統芸能に触れることができる内容で、次の世代の担い手を育てることを目指した。</p> <p>また、多くの人材育成事業も延期や中止となったが、創造活動を止めないという信念と工夫により、劇団や専門アーティストの皆さんと力を結集して作品を創り出すことに多くの時間を割くことができた。この繋がりと実績を次年度の事業展開に引き継いでいく。50回の節目となった札幌人形劇祭は、コロナ禍にもかかわらず24劇団と多くの参加があった。”コロナ禍だからこそ劇場に足を運んでほしい”という劇団の皆さんの思いとそれに劇場として寄り添うことができた意味は大きいと感じている。その中で子ども劇団の活躍が顕著であり、これまで継続して取り組んできた子どもたちの人材育成が実りつつある。</p> <p>こぐま座・やまびこ座は子どものための専門劇場という特性から、人形劇や伝統芸能のワークショップの依頼や、団体や企業からの作品創造の協力依頼等を多くお受けした。これまでの実績の積み重ねにより評価をいただいております。今後の劇場づくりの新たな可能性を探る1年となった。</p> <p>①新型コロナウイルス感染症対応 新型コロナウイルス感染症対策として、前年度から継続してガイドラインに基づき、人数制限の上で、検温、換気、消毒、距離の確保等の対策を劇団と協働で実施した。来場者のご理解と、劇団の協力により安心できる状況での公演を継続することができた。</p> <p>また、文化庁から感染症対策に特化した助成を受け、カメラやミキサー等のリモート機材の購入を行ったことで、参加者と劇場をオンラインで繋げて事業を実施することができた。新たな形態として、対面形式と併用して事業を継続することに繋げることができた。</p> <p>②数値実績 目標である200回の公演回数には届かなかったものの、コロナ禍で昨年度よりも臨時休館日が多い中で昨年度とほぼ同数の公演を実施することができた（R2:150回→R3:147回、昨年度比98%）。この状況下でも作品創造に繋がられるよう劇団支援を行い、公演を継続できた成果は大きい。</p> <p>また、観劇者数も前年度比112%（R2:7,046人→R3:7,892人）とコロナ禍による落ち込みを回復しつつある。現在、人数制限で座席数は100人を上限としているが、劇団からは採算が取れないことから緩和を求める声も多く聞かれる。今後の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、段階的な緩和を検討していきたい。</p>	<p>基本方針</p> <p>『未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり』</p> <p>コロナ禍の影響で、人々が集まり一緒にの行動を取らなくとも各自が離れた場所で役割を果たす新たな生活のスタイル、すなわち分散社会が現れてきている。取り残されそうな人を放置せず、生きづらさを抱える他者に寄り添う寛容さが求められ、将来にわたって持続可能な社会を築けるかを今問われている。</p> <p>これらの社会変化や人々の行動変化、環境問題、教育格差等、様々な課題が突き付けられている現在、子どものための専門劇場として、そこを解消するために何ができるのか、本当の豊かさとは何なのかを考え、劇場運営をとおして社会課題に取り組んでいくことが重要である。</p> <p>こども人形劇場・こどもの劇場では、「文化芸術が栄えること＝すべての子どもたちのこころの豊かさが生まれ、将来へ受け継がれていくこと」と捉え、文化芸術の力を実感する事業を展開し、札幌の文化をリードしていく。</p> <p>良質な舞台芸術の創造発信、継続的な文化体験機会の創出を図り、将来における文化事業の重要性を今一度社会に知らしめ、芸術を守り育てていく持続可能な劇場づくりを目指す。</p> <p>ソーシャルインクルージョンの機能を持ち、障がいの有無にかかわらず、誰もが文化体験の機会を享受できること、かかわる人材の育成、市民の持つ人的資源の発掘、子どもの文化に関する相談窓口、講師派遣など、公立専門劇場として様々な文化団体、劇団、市民をつなぐネットワークの拠点となることを実現していく。</p> <p>また、令和4年度は札幌市との指定管理現契約の最終年度を迎えることを踏まえ、次期指定管理事業提案に向けた将来的な展望を見据え、市民ニーズに応える試行的な取り組みを展開する。</p>

<p>③収支状況 新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした施設休館及び利用制限で、北海道外からの往来を含めた規模の大きい事業の実施が困難となり、その他事業も中止や内容変更で減収となった。しかし、コロナ禍で蓄積した新たなノウハウによる野外公演の実施と、休館明けの下半期には延期した主催公演や人材育成事業を着実に実施することで収益確保に繋げることができた。</p>	
---	--

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>施設の維持管理、貸館業務、事業の実施、自主事業、及び施設の管理運営については全般的に適切な業務の執行がなされている。</p> <p>令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした臨時休館や、施設再開後の利用者制限等のため、施設全体の利用者数等の要求水準に届かない部分もあったが、屋外公演等の事業や障がい児との舞台芸術制作など、新しい事業展開を模索し、地域の子ども達に寄り添った札幌市の児童文化の拠点施設として、その普及・促進に取り組んでいると評価できる。</p>	<p>施設の設置目的を達成するため、今後とも制作団体の育成を行っていく必要があることはもちろんのこと、コロナ禍において、更なる利用者の増加及び収入の安定を図るため、引き続き市民ニーズを検証するとともに、より魅力的な創意工夫ある事業を展開していくこと。</p>